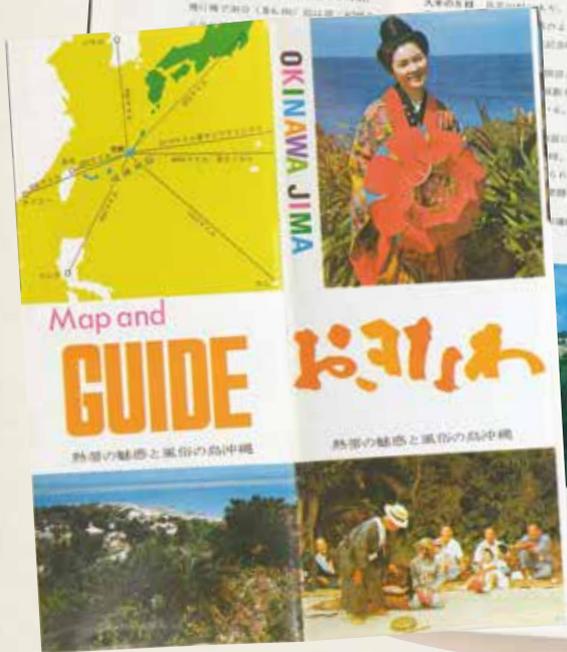


琉政だより

NO.11

2019年12月

沖縄観光



R00161308B, 147・154頁



琉球政府文書デジタルアーカイブはこちらのサイトからご覧になれます。

琉球政府の時代



<https://www3.archives.pref.okinawa.jp/GRI/>



琉球政府文書にみる沖繩観光

琉球政府文書デジタルアーカイブから、沖繩観光に関する文書を時系列にまとめて紹介します。観光をめぐる琉球政府の動きや、観光産業が発展していく様子がわかります。



沖繩観光協会の1961年度事業計画書・1959年事業実績書

事業計画書には、観光地や公園候補地の基本調査、戦蹟地の壕調査などを行うとあります。また、事業実績書には、2月に第4回バスガイドコンクール開催、4月に世界一周観光団カロナ号より150名が下船、11月に画家の岡本太郎を久高島へ案内などと記されています。

R00069296B, 51・57頁



1958 守礼門を復元

守礼門復元期成会が総工事費 23,406ドルをかけて再建した守礼門は、公共のためとして琉球政府に無償譲渡されました。

R00000915B, 450頁



写真番号 002500

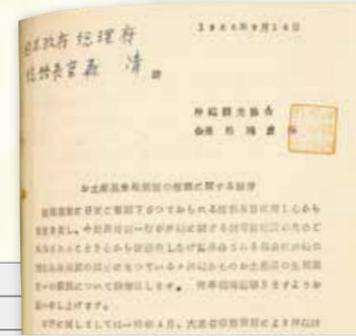


年次別観光客数の推移
『観光統計要覧』(裏面)より

1966 沖繩観光協会 土産品免税規制の撤廃を陳情

沖繩では観光産業が重要な地位を占めているため、観光客に対するドル持出し枠(500ドル)内での土産品については原則として全額免税にしてもらいたいと日本政府に要望しています。

R00001109B, 198頁



沖繩観光開発事業団の1969年度事業計画

免税売店事業の運営、首里司令部壕や海軍壕の開発、海の家・レストハウス・海中公園の建設とあります。海中公園については、「格調高いメッカとしての魅力ある観光地を造成して外客の誘致を図り、あわせて住民の教養とレクリエーションの場とする」と記されています。

R00070434B, 19頁



沖繩観光開発事業団のしおり1970年



R00161308B, 103頁

1956 沖繩観光協会設立

57 政府立公園法公布
観光事業の助成に関する立法公布

58 守礼門を復元
沖繩ツアーリスト設立
B円からドルへ通貨切替

59 世界一周観光船カロナ号那覇寄港

1960 日本政府外貨持出し額を2000ドルから400ドルに引上げ

61 琉球政府経済局に「観光課」新設
全日本空輸 鹿児島 那覇路線開設

62 観光ホテル整備法公布

63 琉球海運ひめゆり丸が那覇/鹿児島航路に就航

64 日本政府 海外旅行を自由化
外貨持出し額を500ドルに引上げ

65 観光開発審議会設置規則制定
トランジット・ビザ(通過客査証)制実施

66 旅行あっせん業法公布
那覇空港観光案内所開設

67 琉球海運 那覇/東京旅客定期航路開設
南西航空 離島路線開設

68 沖繩観光開発事業団発足

69

1970 沖繩海中公園(海中展望塔)、旧海軍司令部壕営業開始

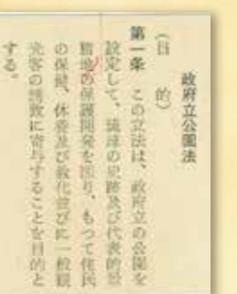
72 日本復帰

1957

- 観光事業の助成に関する立法(1月15日公布)
- 政府立公園法(8月30日公布)



R00160501B, 8頁



R00160836B, 8頁

1961.8

経済局に観光課を新設

- 観光ホテル整備法(1962年8月16日公布)



R00160503B, 8頁

1965.2

観光開発審議会設置規則 制定

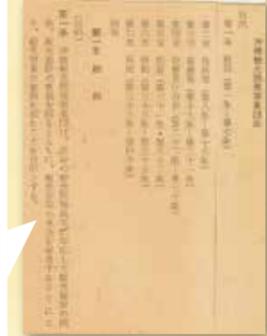
行政主席の諮問に応じて観光開発に関する重要な事項を審議する。
(R00161156B)

1966.5

旅行あっせん業法 公布

旅行あっせん業の健全な発達を図り、琉球住民及び非琉球人の旅客の接遇の向上に資することを目的とする。
(R00161048B)

- 沖繩観光開発事業団法(1967年9月4日公布)



R00160384B, 5頁

1968.1

沖繩観光開発事業団発足

琉球政府による法制度の整備

※Rではじまる10桁の資料コードを使って資料を閲覧できます。「琉球政府の時代」トップ>資料を検索する>コード検索>検索ボックスに資料コードを入力> をクリック

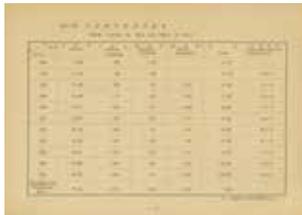


『観光統計要覧』1966～70年版

通商産業局発行の『観光統計要覧』には、入域観光客数や観光収入、宿泊施設や交通機関など「観光の実態を正しく把握する参考資料」がまとめられています。

年次別目的別観光客数

1956年に年間13,103人だった入域観光客は、1970年には172,349人と、10倍以上になりました。(中面グラフ)

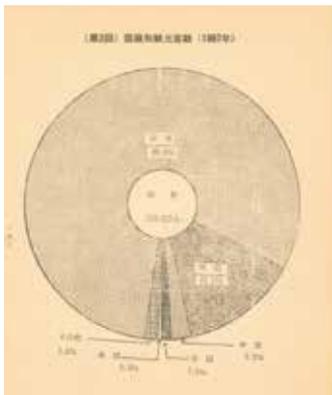


1966年版, 14頁



1970年版, 11頁

国籍別観光客数



1967年版, 8頁

年次別観光収入の推移



1967年版, 10頁



政府立公園区域図

1968年版, 64頁

政府登録及び沖縄観光協会指定ホテル、旅館一覧表

もっとも大きなホテルは、政府要人の宿泊先としても利用された琉球東急ホテルで、客室数96室、収容人数は160人となっています。また、沖縄の中学生が修学旅行でよく宿泊した名護の双葉荘も見られます。

1968年版, 25頁



『琉球のあゆみ』



1963年4月号, 11頁



1967年4・5月号, 11頁

琉球政府の総合広報誌『琉球のあゆみ』にも観光に関する記事が掲載されています。1963年4月号の「これからの観光行政」や、1967年4・5月号の「商工業・自由主義経済を基調として出発」の「観光」の項目からは、アメリカ統治下で沖縄の観光産業がどのように発展してきたのか、その概略がわかります。